

クリティカル・シンキング

就職活動からその先にあるビジネスシーンでの活躍まで
理系学生が身に付けるべき思考技術とは

「エントリーシートをどう書けばいいかわからない」「面接でうまくアピールできない」「そんな悩みを抱えているのなら、正しい思考技術を学んでみてはどうだろうか。」

就職活動にとどまらず、ビジネスで活躍するための思考技術としてクリティカル・シンキングが欠かせない。クリティカル・シンキングとはどういう能力か、そしてどうやって伸ばしていけば良いのか。

学校法人グロービス経営大学院でクリティカル・シンキングを教える田久保善彦氏に話を聞いた。

エントリーシート・面接対策には クリティカル・シンキングが効果的

「面接官から「学生時代に一番がんばったことは？」と聞かれ、大学での研究内容について10分間も力説した。話したいことはすべて話せて満足したけれど、面接官からは冷やかな視線。どんなに大変な研究だったか熱弁をふるったのに、結果を見たら「不合格」……。何の準備もせずに就職活動に臨んだら、そんな未来が待っているかもしれない。」

そのような失敗例について「僕は理系出身なので、気持ちはよく分かります。でも、大切なことは、面接官が聞きたいと思っていることにしっかりと答えることなのですよね」と語るのは、グロービス経営大学院 経営研究科 副研究科長の田久保善彦氏。面接官はがんばったこと自体を聞きたいわけではない。そのエピソードを通じて、あなたの強みや困難な状況にどう立ち向かったのかを知りたがっている。言い換えるな

ら、面接官がその質問で何を聞こうとしているのか、論理立てて考えて、焦点をズラさずに適切な回答を返すことが必要なのだという。

というのも、エントリーシートにせよ、面接にせよ、評価するのは企業で働く社会人。学生とは違って、社会人は常に論理的に考えながらビジネスを進めている。ビジネスとは、相手に何か価値のある商品・サービスを提供して対価をいただくこと。相手に「お金を支払うだけの価値がある」と納得してもらえないと、財布のひもは緩まない。

従って、「誰にでも理解できる言葉で、理解できる順序で、理解できる理屈で物事を話したり、書いたりすること」（田久保氏）がビジネスでは重要となる。クリティカル・シンキングとは、そうしたコミュニケーション能力や、問題になっていく点を見抜いて解決に導く能力などの基盤になる論理的な思考技術のこと。これがないと、会話や主張が噛み合わないままに終わってしまう。ビジネスでは必須の能力だけに、就職活動で評価される際にも、クリティカル・シンキングのできる人材かどうか、自然とチェックされることになるのだ。

クリティカル・シンキング＝筋トレ！？ 誰でも習得できる必須トレーニング

ビジネスに慣れていない学生や若手のビジネスパーソンには、そうしたクリティカル・シンキングの力が欠けている人も多い。クリティカル・シンキングは、自社の商品をお客様に説明する時、あるいは上司に自分の企画書を承認してほしい時と、さまざまなシーン

が必要とされるが、基本的な部分は同じ。努力さえすれば、後天的に身に付けることができる能力だという。

「言っていることが分かりにくい」と言われた人の原因を考えてみると、自分の頭の中にあることを整理しないままに話してしまうから、伝わらないことが多い。短い時間のうちに頭の中を整理して、要点を絞って相手に伝えることが大切なのです」(田久保氏)

口達者でも感情の赴くまま非論理的に話しているのは誰も耳を貸さなくなる。逆に人見知りでも、口下手でも、クリティカル・シンキングを身に付けて論理的に相手が納得いくように話していけば、自分の伝えたいことを分かってもらえるようになる。スポーツ選手に筋肉トレーニングが必要ないように、全てのビジネスパーソンにクリティカル・シンキングのトレーニングが必要なのだ。

トレーニングに入る前に、 まずは先人の築いたやり方を学ぼう

では、クリティカル・シンキングの能力を伸ばすには、どのようなトレーニングを積めば良いのだろうか。

田久保氏は「常に疑問を持つことが大事」だと訴える。例えばニュースを見て、ポイントを三つくらいにまとめてみる。そしてそのニュースによって、どんな将来が待っているのか、論理的に筋道を立てて考えてみる。アメリカの国債が格下げになれば、円高が進む。日本の製造業は円建てで事業展開している企業が多いため、円高になれば業績は落ち込む可能性が高い。となれば、生産拠点の海外進出が進むだろう。結果として、働き口が減り、就職活動はより厳しいもの

になってくる。このように普段の生活から、思考のトレーニングをする習慣を持つべきなのだ。

ただ、筋トレに効果的な鍛え方があるように、思考のトレーニングにも先人が築いてきた成果の出るやり方というものがある。田久保氏はグロービス経営大学院でそのトレーニング方法を教えているが、学ぶ上ではまず先人のマネから入った方が良いと話している。

「我流でやるか、マネから入るか。どちらでも悪くないと思いますが、最初はマネから入って今まで先人が築き上げたもののベースを学び、そしてマネから離れてみるというやり方が良いでしょう。修・破・離(しゅ・は・り)の姿勢が大事かなと思いますね」

頭の良さに差がなくても アピールで差が付く現状を変えよう

田久保氏はこのようにクリティカル・シンキングの重要性を説明してくれたが、最後にそれ以上に重要なことを忘れてはいけないと釘を刺している。

「就職活動に当たって、自分が何にワクワクするか、心からやりたいと思っていることは何か、自分の特性をよく考えてから就職先を選んでほしいのです。クリティカル・シンキングよりも『自分の心の叫びを聞く』ことが大事です。

論理的な思考技術は武器の一つ。武器を鍛えた結果、『何をしたいか』がないと意味がない。会社に入ってから、ワクワクすることをやるために武器を使う。そういうものだということを忘れないでください」

理系学生に対する感想として、「頭の良さに差がなくても、アピールの上手い下手によって差が付きます

い」と田久保氏。能力があってもアピールできなくてはもったいない。もじもじして消極的になるのではなく、社交性を身に付けて自分をアピールできるようにするために、ぜひクリティカル・シンキングについて学んでほしい——そう田久保氏は願っている。



プロフィール

田久保 善彦
たくぼ・よしひこ

学校法人グロービス経営大学院
経営研究科 副研究科長
慶應義塾大学 大学院 理工学研究科 修了

セミナー告知

理系ナビキャリアスクール

グロービスの クリティカル・シンキング集中講座 ～ビジネスコミュニケーション力の向上～

2011年10月～11月 開催予定

クリティカル・シンキングとは？MBA的思考技術とは？
このたび、ビジネスリーダーを志す社会人の方を対象にした
ビジネススクールを運営している『グロービス経営大学院』
の講師をお迎えし、理系学生に向けた特別講座(無料)を
開催することが決定しました！

セミナーの詳細、エントリー受付は理系ナビをご覧ください。

<http://www.rikeinavi.com/>